

第15回 横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録	
議題	1 横浜市景観ビジョンの改定について（審議）
日時	平成29年12月18日（月） 午前10時から11時30分まで
開催場所	松村ビル別館5階 502会議室
出席委員 （敬称略）	西村幸夫（部会長）、大西晴之、国吉直行、塩田久美子、中津秀之
欠席委員 （敬称略）	加藤仁美、鈴木智恵子
出席した書記	書記：小池政則（都市整備局企画部長）、嶋田稔（都市整備局地域まちづくり部長） 梶山祐実（都市整備局都市デザイン室長）、鵜田傑（都市整備局景観調整課長）
説明者	議題1 山田渚（都市整備局都市デザイン室 担当係長）
開催形態	公開（傍聴者1名、記者0名）
決定事項	議題1：本日の意見を踏まえ、引き続き検討を進めること。
議 事	<p>1 横浜市景観ビジョンの改定について（審議）</p> <p>議題1について、事務局から説明を行った。</p> <p>○西村部会長 少しずついきたいのですけれども、その前に全体として質問や意見もあると思います。全体としてコメントや質問があればいただいて、もう少し細かいことは順番にいかがかと思えます。</p> <p>○国吉委員 この景観ビジョンを扱うに際して、横浜は景観づくりを頑張ってきたということはあるのですが、2つの流れがあって、1つはやはり行政が先進的に引っ張っていくという流れと、市民が地域ごとに頑張っていて、それを行政がサポートしていくという2つの流れです。両方が重なっているところもあれば、後者を主体に行っているところもあるわけですが、ここの全体のつくり方について、後半部分については行政の主体的なところを再確認していかうみたいなところになっているのかなという感じがあって、今回の改定についての今後のスタンスを、どの辺にウエートを置くのかというのがちょっと見えないなど。市民と書いてあるのですけれども、例えば地域まちづくり条例に沿って地区のまちづくり協定とかも位置づけられたりしますよね。第3章のところなどは、行政が展開していくためにはどうすればいいという視点はあるのだけれども、地域の方々がつくっていく場合にはどうすればいいというのがちょっと欠けているかなという感じがしたので、最終的には行政の内部の話になってきているのではないかなという感想を持ちました。</p> <p>それから言葉遣いの中で、「市民」「事業者」「行政」というのですが、例えば地域の企業というのはどちらに入るのでしょ。例えば馬車道商店街や、山下公園通り会では、ホテルニューグランドさんとか、そういう企業が地域のまちづくりのルールを一緒につくったりしています。こういう場合の企業さんというのは、市民に入るのか、事業者に入るのか。事業者というのは一見してみるとものをつくる人、手続をする人のようにも見えたりするのですけれども、まちづくりの担い手のほうの事業者も言っているのかどうか、その辺がちょっとわからないということがありました。</p> <p>それから言葉の使い方で、「まち」という言葉が平仮名だったり漢字で出てきたりするのですけれども、場所と言ったり土地と言ったりして、土地というのは、地区だったり、町だったり、ある一定のエリアだと思うのです。あるいは地域だったりするのですが、その辺の言葉遣いが余り全体に一貫していないなという感じがしました。</p> <p>○西村部会長 何か事務局で答えはありますか。</p> <p>○梶山書記 最初のご指摘の、前回の政策検討部会でも行政が引っ張る部分と、市民がやってきたものをサポートする部分というのを2本立てでいくべきだということで、一応その方向性でまとめていきたいというふうに事務局側としては思っています。3章が行政側ということで、今日は行政側の印象が強くなってしまったところがあるかと思いますが、次回ご審議いただく実践編につきましても、市民の方が主体的にやるまちづくりについてどういった事例が使えるかというようなこともかなり意識してまとめていかうとは思っておりますので、行政側に偏ってしまっているというご意見はいただいておりますが、両方に使えるという視点で考えております。</p> <p>○国吉委員 最後の3番目のところの、創造的協議とか、協議ということはやはり行政の言葉だと思うので</p>

す。だから、それも含めて地域の議論とか、地域の委員会の活動とか、そういう何かを含めた言葉でくっついておいて、その中には行政の協議もあるし、地域のまちづくり委員会の活動もあるみたいな感じでやっていったほうが、これちょっと違うな、みたいに思われないうにしたほうがいいかなという感じがしました。

○西村部会長 そうなると地元の企業も、事業者じゃなくて市民の側にも入れるような枠組みの中に入れられるということですかね。全体として伺っていると、去年までつくっていたのが、景観をどう読むかというところ、先ほど言った2章の2のところを中心だったので、全く初めての人に景観はこういうふうにやったらいいのではないかと、みたいな点を中心でした。一方、それを素案の段階で行政の外の部局にいろいろ見てもらったら、先ほど言っていた、行政の協議の中で使えるものにしてほしいという声があって、3章などは割とそこにシフトしてきたということなのです。でも、今のお話のように、そこにシフトし過ぎると、そこばかりだという感じがするという感じに受け取られるということでしょうか。

○中津委員 これは長い議論なので、相当話したと思うのですが、見れば見るたびにいろいろな新しいことを思いつくのです。今の国吉委員の話を受けたことをちょっとお話しさせていただくと、やはりこの経緯・経過というのをどこかでちゃんと触れたほうがいいかなと思っています。今まで横浜市がどういうふう景観について考えてきたかというのは、都市デザインの中での景観という意味、いろいろな6大事業まで振り返るべきかどうかわからないですけれども、今までの世の中はこういうふうに来てきたけれども、これから横浜市はこうしますというようなことを、例えば中学生とかに見せたときどうなるかということがすごく気になっています。この週末、中学生とまちづくりの会議をやって、いろいろ中学生と議論したのですが、その中で、やはり全然わかっていないのだなというのがすごくあって、こういうのを中学生に配りたいかと、私は個人的に思っています。そのときに今までやってきたことと、これからどうなってくるか、その中で特に社会の流れがこう変わってくる中でこういうふうにしていくとか、少子高齢化であったり、地球環境の問題であったり、そういうことを考えたものの延長上に景観があるとか。普通、景観とか、中学生に話をすると、余り考えていないのです。だけど、そういうのも地球環境と関係があるとか、そういう位置づけというのを、経緯・経過、過去と今と未来というのを、ちゃんと中学生くらいにはわかるような説明がどこかにほしいなという気がしました。

それと、これもずっと議論していることですが、景観ビジョンと都市デザインビジョンとの役割分担みたいなものもその中に入れて、これから先どうしていくか。個人的にはいろいろ思うことがありますが、国吉委員と私、考え方が違うところもあるかもしれないですけれども、地域と行政と事業者との関係がどうあるべきかを含めて、景観ビジョンと都市デザインビジョンの関係も含めて、過去と現在・未来というのをわかりやすく説明していただければと思います。

○西村部会長 それは具体的にここまでやってきたことがイントロダクションで書かれている。前の議論では、例えば最初の口絵のところには日本大通りの写真がありましたよね。ここに、何でこの景観ができたのかというところで、背景になるような、この建物を守ったとか、こういう整備をやられたとか、そういうのを書くみたいな話がありましたよね。そういうのも含めての、それがこういう景観をつくり出したというような議論があったと思うのだけれども。

○梶山書記 まず、冒頭のところのお話は、これまでやってきたところも踏まえて書き直そうとは思っているのですが、細かい、こういったことをやってきたというような、もう少し詳しいご説明というか、資料につきましては、次回お示しする実践編の実録集の中で、例えば日本大通りですとか、その他も含めて、典型的な事例を幾つかお示しして、それをプロトタイプで参考にしていただけるような資料ということをご提供させていただきたいと思っています。

○西村部会長 実践編も、あとのおまけというよりも、そこに結構主張があると。市民参加とか、これまでの経験とか、そんな感じなのですか。

○梶山書記 そうですね。先ほどお話しした行政編と市民編というのをきちんと入れていこうと思っております。市民が主体でやったまちづくりの事例というのも、同じような形で、実録集という形になるかと思うのですが、先ほど言った2つの柱で整理はさせていただきたいというふうに思っています。

○西村部会長 次に議論してくれということですね。ただ、うまく言えるのであれば本文の中にも何か入れていったほうが良いような気がします。何かありますか。

○塩田委員 まず気になった点が2つあるのですが、1つは「横浜らしい」とか「横浜らしさ」という言葉自体をどう使うかということなのですが、今、お話を伺っていると、横浜らしい景観というのは、市民や事業者が行政サイドの方々と協議を重ねて町の景観をつくってきた、その景観そのものということだと思っておりますけれども、その辺が伝わってこないのです。またこの後、横浜らしい景観をつくっていくために

どうしていくのかというの、加えて伝わってきにくいなという気がしました。

もう1つ混乱を招くのは、27ページに横浜らしい景観をつくるポイントというのが10カ条で挙げてあるのですが、この10カ条の内容を見ていきますと、実はこのタイトルのところは「良好な景観をつくるポイント」と書いても多分そのまま違和感なく受け取られてしまうのではないかと思います。ここにあって「横浜らしい」とついているのはどうなのかなというの、すごく単純に疑問に感じ、10個の項目と横浜らしいという言葉がどうなのかなという部分を感じまして、そこの整理がもう少し必要なかなという感じを受けました。

それともう1点目は、書いている方も、今まで議論してきた多くの方々も、景観をつくっていく上の協議の全体の流れを恐らく経験していらっしゃる方、わかっている方が多いと思うのですが、市民がぱっとこれを手に持って、ページを繰っていたときに、全体の流れ自体がわかっていないので、この本を見てほしいタイミングということが目次の横に整理されていましたが、それが事業を進めていく上でのどのタイミングに合致しているのかということがわかりにくい。全体の流れがあつてのタイミングだと思うので、それは最初の部分で、例えばモデル事業、こんなふうに進んでいくのですという流れを説明していただいたほうが使いやすくなるのではないかなという感じを受けました。

○西村部会長 今、いろいろな重要な点が出ましたけどどうしましょう。まず、27ページの横浜らしい景観をつくるポイント、これはどこから出てきたのですか。前からあったものですか。

○梶山書記 昨年度提案させていただいているときにはこれがなくて、先ほどの資料1-1で審議していただいた、7月31日の政策検討部会のときと、9月12日の都市美対策審議会で、こういった横浜のポイントがきちんと簡単にわかるようなものがほしいという、行政内部でもそういった意見がありましたので、それをご提示させていただいて、議論をしていただいていたというものになります。

○西村部会長 横浜らしさみたいな、確かにそうですね。これは横浜ではなくても言えそうなことなので、どういうふうに位置づけるかですね。言っていることは間違いではないけれども。

○国吉委員 特に1番が最初に来ているでしょう。「調和の取れた魅力的な街並み」、最初から調和というふうに言って議論を始める、余り個性を生み出しにくいのではないかなという感じがします。これが先に来てしまっていると、あまり特徴が出ないのではないかな。逆に、7つの目標のときは別に「調和の取れた」とは言っていないのです。それなりに視覚的な美しさをつくるかと言っているのですが、調和というよりもむしろ、歩行空間、歩行者を大事にしようとか、歴史を大事にしようと言っている。そちらにウエートを置いて、その結果として出てきたものが美しくあつてほしいみたいな。

○中津委員 27ページで言われているのはそのとおりなのです。だからこそ、景観ビジョンって何？というところにちゃんと説明が要るかなと思っていて、むしろこの後ろのほうは方法論なので、方法論というのは別に教科書みたいなものでいいかなと、私は個人的には思っています。むしろそれをどういうふうにかつというところに横浜らしさを見出すべきかなと思っていて、9ページの景観ビジョンとは書いてあるところのページの考え方こそ、どういうふうにこの景観を市民と事業者がコラボレーションしながら、行政がファシリテーターになっていくとか、そのシステムのところに横浜らしさというものをぐっと押し込めることによって、あと出てくるものは方法論として、全国の人にも使ってくださいというような教科書になってもいいのではないかなという議論も過去にありました。ただ、それをどういうふうにかつ、どういうふうに決定していくか、議論していくかということこそが、横浜メソッドとして全国の行政が真似したくなるようなものになればいいのではないかなという議論を一度したような気がする、この9ページこそもっと内容を議論したほうがいいかなと思っています。

個人的にはこの景観ビジョンの役割と書いてある①、②がありますけれども、景観づくりを推し進めるといふ、この推し進めるといふ言葉が横浜らしくないかなという気がしています。そのあたりを、地域で考えるとか、地域で議論するとか、その中で事業者と行政と市民との関係というのが、本当にただの正三角形なのではないかな。今までの時代やってきたことだと思うのですが、それがもっとどういうふうにかつてくるかがこの辺に入っていればいいかなという気がしています。

○西村部会長 なるほど。確かに9ページのところで、今ちょうど委員がおっしゃったようなプロセスみたいなものが、どういうステージでどういうことをやればいいのかみたいなところがもう少しイメージが湧くと。

○中津委員 そこに横浜らしさを入れておけば、あとは方法論なので。

○西村部会長 なるほど。ただ、国吉委員がおっしゃった、調和というのが頭に来ていると確かに、結果として調和するというのはいいかもしれないけれども、あまり目立ちやいけません、みたいな話になると、

個性と若干違うかもしれないので、少し順番とか、そういうのは工夫したほうがいいかもしれないですね。
○大西委員 よろしいでしょうか。この景観ビジョンというのは、私も経験がないものですから、初めて読ませていただいて、非常によくまとまっているというようには感じました。一方で、今までは横浜市というのは定住人口にしてもずっとプラスになってきたものが、2020年頃からは定住人口がだんだん減ってくる、なおかつ高齢化が進む、財政等の問題もあると。やはり未来とも横浜市であるとか、市民がいかに魅力を感じるか、また横浜の魅力を高めることによって、よそからの人であるとか、企業であるとか、そういうものも結びついてくる、そういう意味でこの景観ビジョンというのは非常に大切な位置づけになってくるのではないのかなというふうに感じております。

別に横浜だけの問題ではないと思いますけれども、横浜らしさだとか、歴史だとかもちろん大切にしなければいけないけれども、個人的な意見ですが、こういう景観とかまちづくりにおいて、日本で一番、ゆとりというものが非常に少ないと思うのです。例えば駅をおりて、駅前の広場の狭さであるとか、ここにも歩道の問題、快適な歩道、快適な歩道という、やはりもっとゆとりを持った歩道、あるいは自転車や何かの独立性であるとか、みなとみらいなどについても立体的な動く歩道等もありますけれども、ごく一部です。そういったものがこれからの横浜ということにおいては、こういう景観ビジョンの一環として、そういうゆとりあるまちづくりを進めていきますよという将来的な要素というものにかかなり割いてもいいのではないのかなと、それによって横浜の魅力が高まっていくのではないのかなという感じがしております。それから、これからますます日本人だけでなく、外国人の定住あるいは観光客等の一時的滞在とか、そういったものも踏まえた要素も必要になってくるのではないのかなという感じを持っております。

○西村部会長 ありがとうございます。魅力を増すことがいろいろな企業や人を引きつけると。

○大西委員 人が集まり、また企業も集まり、町全体としてのにぎわいに。

○西村部会長 つながるということですね。そういう意味で景観が大事だというような視点をもうちょっと入れてほしいということですね。それともう一つ、ゆとりという言葉がどこかに入ったほうがいいのではないかというお話です。わかりました。

去年は割合景観への気づきみたいなものを大事にしましょうというところがあったわけで、今年は行政が使うときに、ちゃんと協議で使いたいというところに振れているわけであって、市民の側の部分が少し見えにくくなっているという感じもあるということですかね。

○国吉委員 今のこととつながりがありますけれども、第3章のタイトルが「行政による景観づくりに関する取組方針」となっているわけです。そういうふうにするのであれば、「地域・市民による景観づくりに関する取組方針」というのをもう1個つくるか、あるいは、景観づくりに関する取り組み方針ということで、その内側に2つ流れをつくるか。いきなり創造的協議という言葉が出てくると、市民は非常に難しいなという感じがするわけです。創造的協議というのは、わかっている人しかわからない言葉だと思うのです。議論しながらそれぞれのよさを引き出して、単にルールどおりにやるのではなくて、よさを引き出して、新たな発見をしてつくっていくということなのですが、その辺が創造的協議という言葉を使わなくてもいいので、何かそれぞれの事業者や関係者がいい提案を出し合ってつくっていく、議論してくというようなニュアンスをもう少し出す文面を前に出したほうが良いと思います。

最も大事なものは、一番最初に地域や地区の共通の目標を掲げて、地域と行政とが一緒になって進むということ。まず、町をつくるのだということを書いて、そのための具体的な流れという感じでつくられていけば、地域・市民が主体的にやっていく場合と、行政がやっていく場合と、両方が共有する場合と、幾つかのケースがありますよと書けば、どちらでも使えるのかなという感じがしました。

あと、規制と誘導という言葉も、やはり何か規制かという、一見そう捉えられるので、もちろんそういったルールとか方向性とか、そういう言葉でくくっておいたほうがいいのではないかなと思うのです。

○西村部会長 最初、特に頭のところの出だしをうまく書いて、言葉をもう少し気をつけるということですかね。

○中津委員 実は創造的協議というものこそ、横浜の非常に重要な特徴ですよ。そんなことを言い出したのは多分横浜ではないかなと私は信じています。そういうのも序章の一番初めの「景観ビジョンとは」の、例えば10ページに何かイメージの絵がぼんぼんと水玉模様で描いてあるのですけれども、これよりは、この「景観ビジョンとは」というところを見開き2ページぐらいにして、もうちょっとそこにそういう創造的協議とか、そういうものにもどんどん発展していくというダイアグラムをきっちり、子供にもわかるような時間の流れ——今これからこういうふういろいろなことを地域の人たちが考えたらこういうふうに進めていくのが横浜的ですよというような、絵ではなくてもうちょっと技術的な、実践的なダイアグラムとして、

創造的協議みたいな言葉も後ろに入ってくるような、そういう設計図があればいいのではないのでしょうか。つまり、市民が見たときに、まず今自分たちはどういうことをすべきだな、そのときどこに連絡するか、誰が助けてくれるか、そのとき事業者と市民がどういう関係になるべきかみたいなものがあるといいのではないのでしょうか。この景観ビジョンとはというページをもう少し重要視して、景観ビジョンの位置づけに書いてあると重複していいと思うのです。ただ、全体像の設計図というのがここにほしいなという気はしました。

○西村部会長 なるほど。そこに、今国吉委員がおっしゃったようなことも…

○中津委員 入れていけば、後ろのほうで急に創造的協議とかの難しい言葉がでてきてもわかるようになるかなと思います。

○西村部会長 もっと頭のほうで。いずれにしても、何かもう少し市民の手がかりとして、一つの流れに乗れるようなものですかね。

○中津委員 例えば9～10ページをもうちょっと、もう2ページ見開きを開けて、もっと詳しく、歴史的な経緯という大きなタイムスケールでの今と、短いタイムスケールでのこれからどうあるべきかという、その方法論的なものをもうちょっと詳しく矢印とかで、進み方や対応する部署があるのだというようなことが入っていればいいかなと思います。

○西村部会長 そうすると、大西委員がおっしゃったようなことも、この辺で強調できるかもしれないですね。

○中津委員 そういうことです。そこで交通整理ができて、自分の位置づけ、どういうふうに進むのかということについて、矢印で進んでいくように。地元事業者にとってもそういうことが大事だと思います。

○塩田委員 今の全体の流れが見える形でというのは大賛成でして、やはりそれを見ることで、今どこの部署にお話しに行けばいいのかとか、そういったことがわかってくる形にもなると思いますし、加えてその協議の形、ボトムアップして景観をつくっていくのだという、その形自体が横浜らしさだという形で整理をしておいたほうがすっきりするのかなという気もいたしました。これから先も、さらにその形を進めていきたい、発展させていきたいということが、このビジョンの改定の目的という部分にも入っているべきなのではないかなという気もいたしました。

○西村部会長 わかりました。ほか、どうですか。細かいところでも結構です。何か表現とかであれば。どうぞ。

○塩田委員 すごく細かいことで、読み落としているだけなのかもしれないのですが72ページですとか73ページのあたりに、普及ですとか協働という項目で書かれていらっしゃる部分があって、表彰制度というのはここへ入ってこないのかなという気がしたのですけれども、いかがなのでしょう。

○梶山書記 72ページ、1の景観づくりの普及と発信の(1)あたりで、景観づくりの事例を評価・発信するというようなことが、書き方として「表彰」という書き方を入れたほうがいいのかと思うのですが、その辺を意図しておりました。もう少しわかりやすいような表記にしたいと思います。

○塩田委員 もう何回も回を重ねていらっしゃる事業だと思いますので、はっきりそれは書かれていいのかなという気がしたのですけれども。

○西村部会長 今からやるみたいに言うと、今までやっていないように思われますね。それこそ後ろの実践編にも出てくるのでしょうかね。

○中津委員 非常に技術的なこととか、デザイン的なことで、すごくこれは詰めていらっしゃると思うのですが、あくまでも私の視点は子供の教科書という視点で考えさせていただきますと、全ページを通してリストとラインと小見出しをふやしてほしいなと思いました。例えばいろいろなことを書いていの中で、さっきも言いましたけれども、どこに相談に行くべきかということの部局のリストみたいなものも、後ろにまとめてどんと入れるのではなくて、1個1個、例えばアンダーライン、そのページに例えば具体的に「まちづくりルール等の」と書いてあるとか、景観協定をととか書いてあったら、それに関するホームページのURLがそのページの下に入っているとかのように補足があるといいのではないのでしょうか。見開きをコピーして市民に配ったりすることも想定すると、そのページの中でできる限り完結して、いろいろな情報を網羅していただきたいなということです。

それと、都市とか以外の、先ほどインバウンドの話が出ましたけれども、観光部局など、他の部局とかの連絡先も網羅として入ったほうがいいのかという気がします。特にいろいろ文字を見ていると、もうちょっとアンダーラインなどを引いてあげたほうが子供たちとか、一般市民の人も、そこ重要なんだよねと思って、目がそっちのほうに行きますので、その方法をもうちょっと考えていただきたいなと思います。具体的に言

い出すときりがないのでやめておきますが、それと小見出しも、相当細かく2章の2の1の(1)とか、いろいろ小さく項目が分かれているわけですが、もう少しその中に説明されている文のフレーズと重なるかもしれないですけども、それをちょっと前に書き出すことによって、市民の方は読みやすくなるかなという気がしました。

最後にもう一つ言うと断面図です。せっかくこれも相当長いこと議論しているわけですけども、見開きの2ページで吹き出し1つでは寂しいですよ。これに何か吹き出しが目いっぱい、ぎっしりなるくらいのことって、今からでは無理なのですか。これも2年ぐらい議論している中でこうなっていると思うのですけれども、下に重要なことがいっぱい書いてあるのです。何か、多分それはどのことかなと思ったりすると思うのです。1個1個、地形など自然的な特徴をと書いてあるのに、それをこの中でどう考えていいかわからないとか、そのあたり、もっと漫画的なものが入ることによって、小学生とかはぐっと近づいてくるかなという気がしたので、もし可能であればそのあたりもできればうれしいなと思いました。以上です。

○西村部会長 なるほど。多様なアイデアがぎっしり詰まっているという感じにしたほうがいいのではないかと。

○大西委員 意見というよりも質問なのですけども、68ページに公共施設のデザイン調整ということが出ておりますけれども、公共施設等においても、やはり周囲を考えたデザインの調整を行いますということで、このデザイン性を持った具体的な例や何かを教えてください。あるいは、それこそほかのところにはいろいろ、写真であるとか、そういう絵が出てきているわけですけども、残念ながら私が見ている限りだと、あまりデザイン性というよりも、やはり機能性優先のような公共施設が多いのではないのかなという感じを持つわけでございますけれども、具体的な、こういうものがあるのだということがあれば、ちょっと教えていただければと思うのですが。

○梶山書記 公共施設もいろいろありますので、当然機能性ですとか、そういったものをやっているものもございまして、特にデザインということに重きを置きましたのは、例えばコンペですとか、そういったもので横浜を象徴するようなデザインというものをやってきた公共施設もございまして。例えば大さん橋とかもそうですし、象の鼻パークとかです。そういったものはわかりやすく発信できるような形で書かせていただければというふうには思います。

○大西委員 ここに橋であるとか、公園であるとか、道路であるとかというようなことは書いてあるものから、今言われた大さん橋だとか、象の鼻とか、おっしゃるとおりだと思うのですけれども、古くだと横浜市にある3つの塔や何かは、いまだに一つのシンボルになっております。そういった過去の例もあるので、今後そういう構想がとおりになるのかどうかということ伺いたかったのです。

○西村部会長 新市庁舎もそうなるのですかね。

○梶山書記 そうですね。やはり新しく建つ、特に新市庁舎もそうですけれども、そういったものについては横浜を代表するようなデザインということでやっていきたいということで、いろいろと調整は進めていますが、その後の評価につきましてはこれからという形にはなるかと思っておりますので、今後とも新しくできていく公共施設については、やはり横浜を代表するものであるという自覚を持ってやっていくというようなことで、協議はしていきたいというふうには思っております。

○西村部会長 あと、関連して言うと、実践編で後ろにつくものは、ここに今おっしゃったようなところの事例になるようなものも出てくるのですよね。そうすると、実践編のここを見ると、そういうわけでもない。

○梶山書記 今まで想定していたのは、どちらかという民間の方に参考にしていただけるものですか、地元のまちづくりの参考にしていただけるものというのを想定していたのであまり公共事業は想定してなかったのです。

○西村部会長 その意味で言うと、実践編との関係みたいなものも、割合行政が協議に使えるというところがあるけれども、後ろの実践編のほうは市民側がいろいろやるときに手助けになるとか、そういう感じなのですか。

○梶山書記 先ほど市民の方がどういう手順でまちづくりを進めるかというようなものも、例えば幾つかのテーマに沿って、こういうテーマのまちづくりをするときはこんな感じだというようなことを示すようなものも実践編のほうに入れさせていただこうとは思っていたのですが、やはり本編でもある程度そういったところが必要だということで、実践編をつくる中で、本編にどこを入れていこうかというののもちょっと整理をさせていただければと思います。

○国吉委員 公共施設については、多分他局のさまざまな事業を調整し合っているようなのが、やはり横浜の特徴だと思うので、例えば山下公園の世界の広場からポーリン橋、人形の家、フランス橋とか、ああい

うようないろいろな事業をつないで魅力的な公共空間をつくっていくとか、そういうような事例は、横浜市の人も、市役所の人ももうわかっていないと思うのです。だからそういう公共事業が、お互いコンセプトを出し合って、つないでいってできたという事例や、民間でも日産の中を通路として公共空間が貫いてとかの事例ですとか、特色あるやってきたことなどは挙げていいのではないかなと思うのです。

○説明者（山田） 実践編は具体的には1月にお示しするのですが、基本的には昨年3月につくったものが、お手元の青いファイルに29年3月版といったものがありまして、これの後半に実践編というものを一度お示ししています。市民向けについてはこれを基本として、つくり直しているところではあるのですが、大体はこういった形で景観づくりの流れですとか、具体的にどういったときにはどういったやり方をやっていきましょうといったことについては、市民の取り組みの事例なども紹介しながらお示するというのを想定しております。

○西村部会長 実践編と言われると、事例集かと思ってしまうけれども、そういうわけではなくて、前あった考えの流れを示しているわけですね。

○中津委員 実践編という言葉自体が、これこそ前に欲しいじゃないですか。本編と実践編が、もっとキャッチボールすることが必要なのですね。例えば6ページみたいなところの、知りたいときとか、このときに実践編の何ページとか、そういうふうなのももっともふえて、これを見る市民の人は、これは本編というのかどうかかわからないですけれども、前のほうと実践編と往復すると、そういう見方を想定しているということなのですよ。

○西村部会長 やはりその頭のほうに、後ろが参照されるようになっていて、少しわかりやすいのかな。行ったり来たりするという感じもしますけれども。

○中津委員 それがいいのかよくわかりません。

○塩田委員 本編の部分部分に、実践編の何ページをごらんくださいという形で逐一ついていくという形になるということですか。逆に事例集を見て、これはどういう根拠でここへたどり着いたのよと、本編のほうにまたさかのぼってたどっていけるような形も必要ということになるのでしょうか。

○中津委員 もうちょっとスムーズに一本だけでできたらよいかなど。

○西村部会長 でも、今の示してもらったので、全体像のイメージが少し湧きましたね。ここだけ見ていると、本当に行政文書みたいで、すごく寄ったような感じがしていたけれども。

○中津委員 別のデザイン上の話になりますが、すごく簡単なことだと思うのですが、17ページと18ページの見開きを見たときに、17ページの下の方の「(空間+営み) ×感性」になっている、これはすごくよくわかるのですが、18ページになるとこれは全部パラレルで丸になっているじゃないですか。そのあたり、もうちょっと精査してというか、慎重にグラフィック、インフォグラフィックス的なものをデザインすることが、実は横浜らしさを知ってもらうための特徴かなと思うのです。3つのことがパラレルになった瞬間、すごく教科書的になるのですが、空間と営みの関係を地域の人たちが議論するところに、感性がいいのかどうかかわからないですけれども、それが入ることによって、それが地域ならではの色になるという、それが横浜らしさだと思うのです。そういうことをちょっと考えながら、10ページに戻っていただくと、同じことがこのページ全体に言えて、今の18ページの右の上のほうに空間、営み、感性とありますけれども、例えば空間と営みは丸がこうなっていて、その下の感性というのは実はもうちょっと離れたところにプラスになっているとか、主役と書いてあるところ、市民、事業者、行政、これが本当にトライアングルでいいのか、もうちょっと違うデザインになるとか、このページに書いてある、それぞれのいろいろな項目の関係性というのをもうちょっと正確に深く考えてやると、これも横浜らしさを表現するのに役立つダイアグラムになるのではないかなという気がしました。

○西村部会長 ありがとうございます。このデザインというのはいくつでここに載ってきたのですか。こういうもので描いてくれと言って、デザイナーが工夫して描いた感じ。大体そうですか。

○説明者（山田） そうです。

○西村部会長 注文をもう少し細かくつければいいということですね。この政策検討部会は、毎回議論が収束しないで、あとは事務局が勝手にまとめてくれということになっているのです。言わばなしで難しいですが、優秀な都市デザイン室なので頑張ってください。

○中津委員 この表紙も、すこしもったいない感じがします。

○西村部会長 これもばらばらという感じがしますね。いずれにしても、全体の印象として実践編のイメージが湧かなかつたので、すごく行政に寄ったという気がしたというのと、行政の中で協議しないといけないので、当然そういう注文がつくのはわかるのですが、市民がどう使うかというのは、多分これを作成

	<p>している段階では、市民の目というのは我々の目以外のところでなかなか今の段階では出てこないで、そのバランスをもうちょっとこちらに戻すという役割が、多分この議論の役割なのかなと思うのです。ですので、恐らく実践編で書かれるようなことがうまく中に入るとい話と、それがいかにシーケンスを考えたときに使えるかというのが結構大きいかなと。それを、せっかくいろいろなビジュアルで示しているところがあるので、こうやってうまく示せるとすごくいいかなと。それがまさに景観的というか、デザイン的に工夫するという横浜らしさなのかもしれないので。大変な、難しい宿題ですけれども、まあやれるでしょう。横浜の市役所の人ですから。ということで、ちょっと無責任ですけれども、宿題だけふえて、頑張ってくださいということであります。</p> <p>最後に事務局に確認をお願いします。</p> <p>○梶山書記 ありがとうございます。本日ご審議いただきました内容の確認をさせていただきたいと思えます。</p> <p>まず、行政寄りの印象が非常に強くなってしまったということで、市民のボトムアップというようなものでつくってきた景観というものをもう少し意識して書くというようなところですか、横浜らしさというあたりがなかなか出ていないのではないかとご指摘をいただいたと思いますので、進め方自体が横浜らしさということもあるのではないかとということも含めて整理します。あとは「ゆとり」ですとか、今後のことも踏まえてもう一度整理をさせていただきたいと思えます。</p> <p>次に、これまでの経緯ですとか経過、あと今後の進め方、そういったものをダイアグラム等でわかりやすく表示していくべきではないかということですか、細かいところでいきますと、言葉遣いをもう少し整理をさせていただくとか、表記の仕方、わかりやすさ、それは先ほどお話しした図のことも含めて、こちらの意図がもう少し伝わるような表記の仕方を整理したほうがいいのではないかと。あと、実際に今日いただいたご意見で、かなり実践編で載せますというお話があったかと思うのですが、どういう形で本編との整理をちゃんとしていくかということの関係性なども整理をさせていただいて、あと公共施設につきましても、もう少し例えば事例集なども含めて、ちゃんとアピールするところをきちんと整理をしていったほうがいいのではないかと。全般的にいろいろなご意見をいただきましたので、本日の意見を踏まえまして、引き続き検討を進めさせていただければと思っております。議事のまとめは以上です。また、議事録の確認になりますが、本日の議事録については、横浜市に保有する情報の公開に関する条例に基づき、審議会の議事録について、あらかじめ指定した者の確認を得た上で、それを閲覧に供することとなっておりますので、議事録は部会長の確認を得ることとさせていただきたいと思えます。</p> <p>○西村部会長 よろしいですね。あと、次回は実践編ということになってはいますが、実践編をやると、必然的に本編のほうも見返すことになると思えますので、あまり実践編だけに絞らないでください。よろしくお願います。</p> <p>さて、次回の日程等について、事務局からご説明ください。</p> <p>○梶山書記 次回の政策検討部会につきましては、年明けの1月26日を予定しています。</p> <p>閉 会</p>
資料	<p>資料1：横浜市景観ビジョンの改定について</p> <p>資料2：第14回横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録</p>
特記事項	<p>・本日の議事録については、部会長が確認する。</p>